

「聖地巡礼者」の行動把握の試み —GPS ロガーの活用—

天野 宏 司

I はじめに

1.問題の所在

観光が「余暇時間の中で、日常生活圏を離れて行うさまざまな活動であって、触れ合い、学び、遊ぶということを目的とするもの」¹⁾であるならば、図1に示す、4点が観光学の研究対象になるはずである。

①は、観光者そのものに関するもので、属性などに関する分析である。②は、「日常生活圏」を離れることが観光には求められるため、その移動経路に関する分析である。③は、観光資源そのものについての分析であり、④はその集合体としての観光地全体に対する分析である、③と④の関係を一言で言うと、点的な分析と面的な分析とも言えようか。

実際には、この外側に政策や社会制度に関する分析もある。円安誘導政策やビザ免除の拡大政策などにより、インバウンドを増やすと言うことがわかりやすい例であろうか。5番目の政策や社会制度を研究対象に包含するかどうかは、「観光学」

を大きく捉えるか、小さく捉えるかによって変わってくるはずである。以上4ないし5の視点で言うと、「観光地内部でどのように移動しているか？」という視点が、従来欠落してきた。これを明らかにしようとした場合、従来の方法では観光者について回る参与研究が有効と思われるが、労力の問題、調査者・観光者ともに負担になる点、サンプリングの問題点などから、一般的ではなかった。

2.既存の研究

近年、測定機器の技術向上により、調査時に参与をしなくても測定ができるようになってきた。GPS²⁾ロガー(図2)の発達である。観光者がGPSロガーを携帯すれば、いつどこに行ったかを把握できるようになったため、調査対象者・調査者双方の負担が格段に軽減した。本郷達也(2003)は、その先駆的な研究であり、GPSロガーにより、飛鳥地方を訪れる観光行動について把握し、問題点を整理した。観測機器の選択肢が増えるにつれ、GPSロガーをレンタカーに積み込みGPSログマイニング法の有用性を示した長尾光悦ほか(2004)

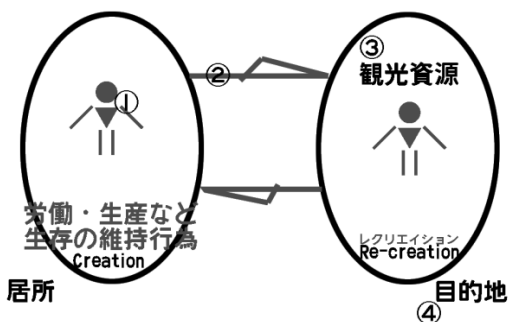


図1 観光調査の対象
天野作図



図2 GPS ロガーの一例
天野撮影

や、GPS 機能付き携帯により鎌倉観光者の歩行行動について把握した野村幸子(2004)の研究などが初期の研究に位置づけられよう。野村の研究はGPS 機能付き携帯を活用する方法であり、長尾光悦ほか(2005)は、レンタカーに搭載されるカーナビゲーションを活用する方法であり、いずれも観光者に負担を掛けず、特に後者の手法は、大量のデータが収集可能であるという点においてGPS を観光地内部の分析に利用するという新たな地平を開いた。その後、GPS を用いた研究は増え、矢部直人ほか(2009)、有馬貴之(2010)では、動物園という限定された空間でも、GPS が有用であることを示した。そんな中、矢部直人ほか(2010)は、GPS を用いた既存の研究を整理し、結論としては「調査により取得した詳細かつ大量のデータを分析する手法に関しては、調査が行われる勢いほどには進展していない印象を受ける」と、研究手法の深化を求めている。

アニメ・ツーリズムに限定しよう。実際にファンが「聖地巡礼」³⁾に際し、どのような行動を取るのか、具体的な行動を実証的に研究した研究は、管見の限り少ない。わずかに岡本健(2008)や、由谷裕哉(2011)、由谷裕哉(2012)のように「聖地巡礼者」が残した交流ノート⁴⁾の記載内容から、その行動を把握しようとした物があるが、岡本健(2008)が指摘するように、「ノートに書き込んでいない巡礼者のデータが得られない」欠点がある。

II 秩父と「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」

「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」(以下「あの花」)は、日本のアニメである。2011年4月から6月までフジテレビのノイタミナ枠などで放送され、全11話で構成される。2012年にはコミカライズされ、脚本家によるノベライズも2011年3-7月に公開されている。2013年8月31日には劇場版アニメが公開された作品である。「あの花」とは、男女6人を主人公とした青春群像劇である。主人公の1人は小学生の時死亡した「めんま(本間 芽

衣子、CV: 茅野愛衣氏)」と呼ばれる少女で、彼女が、高校受験失敗を機に引きこもっている「じんたん(宿海 仁太、CV: 入野自由氏、幼少時 田村睦心氏)」の前に成長した姿で現れることから物語は始まる。高校受験に成功した「ゆきあつ(松雪集、CV: 櫻井孝宏氏、幼少時 瀬戸麻沙美氏)」と「つるこ(鶴見 知利子、CV: 早見沙織氏)」、「じんたん」と同じ高校に通う「あなる(安城 鳴子、CV: 戸松遥氏)」。そして高校には行かず、世界中を旅して回る「ぼっぼ(久川 鉄道、CV: 近藤孝行氏、幼少時 豊崎愛生氏)」。この男女3人ずつを軸に物語は展開する。監督を長井龍雪氏、脚本を岡田麿里氏、キャラクターデザインを田中将賀氏が務め、この3人はテレビアニメ版「とらドラ!」を手がけたスタッフであった。制作はA-1 Pictures社、配給をアニプレックス社が担当していた。

当初は、同作品のプロデューサーの1人である斎藤俊輔氏は、「作品を見て評価してほしいという、すごくシンプルな考えから⁵⁾」、秩父が舞台であることは伏せられ、「秩父を舞台設定のモデルにした」と言っていた。しかし、キー・ビジュアル第1弾には、明らかに秩父橋が描かれ、またテレビ放映が始まると、秩父の情景が随所に見られ、「見る人が見れば」秩父が舞台であることは一目瞭然であった。

2010年12月頃「あの花」放送の話が秩父市にもたらされた。同作品は、2011年4月から6月までノイタミナ枠で放映された(表1)⁶⁾。2011年9月には「ANOHANA FES」が、秩父ミュージックパークで開かれた。秩父市は、秩父アニメツーリズム実行委員会を利用し、自発的かつ散発的なファンの行動を、整理し、ある時には利益誘導⁷⁾のため方向付ける必要もある。しかし、放送中である2011年4-6月に行った具体的な活動は、主に次の2つである。

1つは秩父橋・秩父鉄道線路脇への著作権イラストを用いた注意書きの掲出である。これは、キー・ビジュアルで橋の欄干、あるいは本編中で秩父鉄道線路際の柵に乗る「めんま」が描かれ、これを真似ないようにする注意書きを掲出した。もう1

表1 「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」放送日一覧

話数	タイトル	関東広域圏	近畿広域圏	中京広域圏	日本全域	熊本県	北海道
第1話	超平和バスターズ	4月15日	4月20日	4月22日	5月22日	7月12日	7月18日
第2話	ゆうしゃめんま	4月22日	4月27日	4月29日	5月29日	7月19日	7月25日
第3話	めんまを探そうの会	4月29日	5月4日	5月6日	6月5日	7月26日	8月1日
第4話	白の、リボンのワンピース	5月6日	5月11日	5月13日	6月12日	8月2日	8月8日
第5話	トンネル	5月13日	5月18日	5月20日	6月19日	8月9日	8月15日
第6話	わすれてわすれないで	5月20日	5月25日	5月27日	6月26日	8月16日	8月22日
第7話	ほんとのお願い	5月27日	6月1日	6月3日	7月3日	8月23日	9月5日
第8話	I wonder	6月3日	6月8日	6月10日	7月10日	8月30日	9月12日
第9話	みんなとめんま	6月10日	6月15日	6月14日	7月17日	9月6日	9月19日
第10話	花火	6月14日	6月22日	6月24日	7月24日	9月13日	9月25日
最終話	あの夏に咲く花	6月24日	6月29日	7月1日	7月31日	9月20日	10月3日

天野作成

つは、暴走するファンの整理である。ファンの一部は、劇中で主人公の「じんたん」が着る T シャツを未公認のママ売ろうとした。彼らに販売中止を説得することも委員会が中心になって行われた。しかしながら、放送中の宣伝広告活動は、配給サイドの要請⁸⁾で行われなかった。実際には、まだ放送中である2011年5月上旬(連休中)には、ファンが押しかけ「聖地巡礼⁹⁾」を行っていた。

そして放送終了である。関東広域圏における放送が2011年6月23日に終了し、6月29日に DVD・Blu-ray の第1巻が販売された。7月からは委員会による誘客プロモーションが始まる。委員会は、誘客のため下記の3つの事業を行っていく。

- 1) 聖地巡礼マップ「めんまのおねがいさがし in ちちぶ舞台探訪」の配布
- 2) 聖地七夕イベント「『超平和バスターズ』の願いよ届け！」
- 3) 聖地巡礼イベント「『あの花』聖地巡礼～めんまの願いを叶えよう～」

1)は、地図の配布である。A3版両面印刷で、巻き三つ折り・両面カラー、版権イラストを用い、主役6人の声を務めた声優のコメントが付いたものだった。当初40,000枚の配布予定であったが、漸次増刷・改訂され2015年現在も配布されている。2)は、秩父地域で行われるお盆に併せ「あの花」の花マークが描かれたオリジナル短冊を募集(7月

23日～31日)し、それを市内各所に8月6日～7日の2日間掲出するというものだった。3)は9月11日まで3ステージそれぞれ別の記念品を用意して行われた。

これとは別に、配給サイドでは「ANOHANA FES.」の企画を立てる。「ANOHANA FES.」は、当初秩父宮記念市民会館を会場とした1,000人規模のイベントの予定であった。ところが、2011年3月11日に起きた東日本大震災により秩父宮記念市民会館が入館不能になる。結果として、開催場所に秩父ミュージックパークが選ばれるが、音響機材などを持ち込むと、5,000人規模で開催しないと収支が取れないことが判明した。委員会の誘客事業は、その数を集めるためのプロモーションの一環として機能することになった。

委員会は、放送終了後次々と誘客のためのイベントを打つ。祭礼とのコラボレーション(以下、コラボ)である。龍勢祭において、「あの花」登場人物を描いたオリジナル・ポスターを作成し誘客を図るとともに、龍勢祭では龍勢を「超平和バスターズ¹⁰⁾」名義で奉納し、打上の口上をめんま役の茅野愛衣氏が行った。その後も同委員会は次々と、誘客ポスターの書き下ろしや、スタンプラリーなど、「あの花」を中心としたイベントを企画¹¹⁾していく。

Ⅲ 調査方法

「あの花聖地巡礼」者の場合、スタンプラリー実施期間はチェックポイントをまわっているであろうことは容易に想像が付く。ゆえに、チェックポイントの設定で、ある程度周回箇所をコントロールができるともいえる¹²⁾。しかし、ラリー期間でないときや、そもそもラリーに参加をしていないファンの行動を把握するものではなかった。「聖地巡礼」は、実際に劇中に登場した風景を巡っているものと想定されるものの、それを証明する手立てはなかった。

表2は、劇中で描かれた主な箇所の一覧である。実際に秩父の風景を活用しているが、その位置関係は、実際の空間を反映していない場合も多い。また秘密基地は、存在そのものが空想のものである。舞台は秩父市であるが、主人公の内、2人が通う高校が、西武池袋線・秩父線で結ばれた飯能市にあるという設定になっており、劇中で飯能市街および飯能駅の風景も登場する。

「聖地巡礼」客が巡礼する場合、キー・ビジュアル第1弾で描かれた秩父橋、オープニングに描かれた17番札所定林寺¹³⁾は外すことができない必ず立ち寄る所であった。しかし、首都圏からの来訪客の玄関口となる西武秩父駅から秩父橋までは、5kmほど離れているため、徒歩での移動は困難で

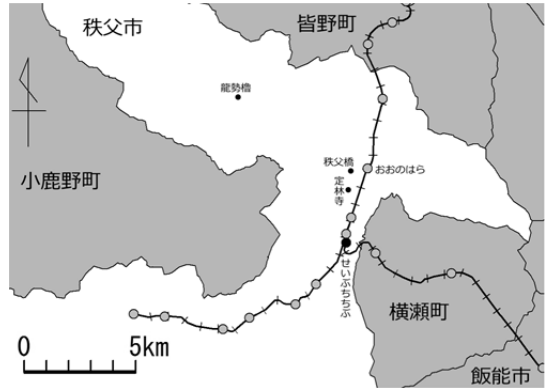


図3 あの花「聖地」所在地
天野作図

あった。最寄りである秩父鉄道・大野原駅まで鉄道を使い移動しても往復3kmは離れているため¹⁴⁾、鉄道利用客が訪問することが困難であった(図3)。そのため、鉄道を利用する「聖地巡礼」客の多くが、レンタサイクルを利用することになる。秩父市域では、いくつかの地点で自転車を貸し出すレンタサイクルが行われている。そのうち、西武秩父駅前に存在する秩父情報館(秩父観光協会・秩父市野坂町1-16-15)でも、自転車を借りることができ、2011年当初10台の電動アシスト付き自転車を貸し出していた。後に人力による普通の自転車を6台増車する。

このレンタサイクルにGPSロガー(記録装置)を取り付け、レンタサイクル利用者の行動を記録

表2 劇中に登場する主な場所

話数ほか	秩父橋	定林寺	羊山周 辺	秩父駅 周辺	秩父神 社周 辺	西武秩父 駅周 辺	龍勢橋 ・龍勢	秘密基 地
キー・ビジュアル オープニング	○	○	○				○	○
1	○			○	○			○
2				○	○	○		○
3	○					○		○
4	○			○	○			○
5					○	西武線		○
6	○							○
7	○	○	○			西武線	○	○
8		○	○			○		○
9	○	○	○	○	○	○	○	○
10	○			○			○	○
最終話	○	○	○			○	○	○
映画	○	○		○	○	○		○

Blu-ray版の実見により天野作成

した。記録を行ったのは、「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」テレビ放送中の2011年5月26日～同年10月31日まで、延べ159日間である。記録に際し、レンタサイクルの利用者には同意を求め、同意出来ない場合にはロガーの貸与をせず、また利用者自身がロガーのスイッチを自由に切れる状態で貸与されたため、利用者にとって都合の悪い記録はされない。また、全16台の自転車に対し、当初は10台しかロガーが存在していなかったため、記録漏れが存在する。

GPS ロガーは、単3乾電池1本で稼働するため、秩父情報館には、乾電池の充電と GPS ロガーの貸与・回収を協力してもらい、論者は月に一度程度、GPS ロガーを予備の機械と入れ替え、データの回収を行った。GPS ロガーは、単3乾電池1本で約10時間～12時間測位できるため、秩父情報館の自転車貸出時間9:00～17:00はカバー出来た。任意に測位間隔を設定出来る仕様になっているため、15秒間隔で測位を行った。

IV 調査結果

レンタサイクルは貸出にあたり、貸出簿への記入を求めている。この貸出簿には、利用開始時間・返却時間とともに使用目的を書く欄があり、一部その利用目的が判明する。

利用目的は、途中仕様が変更され「あの花」という利用目的が加わり新しくなったのが7月5日の

ことである。貸し出し簿の分析は、2011年5月6日～10月31日までの148日間を調査期間とし、利用目的をまとめたのが図4である。総計には、判明する全1,589台分の数値をまとめた。これによると、札所・「あの花」を含む観光目的での利用がもっとも多く、80.0%でレンタサイクルが観光目的で使われていることが分かる。

利用頻度は平均して、1日10.7台を超える。8月の夏休みシーズンには平均14.4台にものぼり、当時所有していた16台の自転車がほぼ出払う結果となった。貸出から返却に至る平均所要時間は4時19分(総計)であるが、1日6時間を超えて借りているケースが184例、一方1時間以内の利用例が104例を占め、それぞれ11.6%、6.5%に当たる。いずれにせよ、図4に示すように多くの「聖地巡礼者」が、レンタサイクルを利用していたことが分かる。

レンタサイクルに GPS ロガーを取り付け、行動経路の把握ができた750トラックを以下の7類型に分けた。

- ①札所型
- ②ミュージアムパーク型
- ③a「あのはな」初期型
- ③b「あのはな」後期型
- ④市街周回型
- ⑤外周型
- ⑥近隣自治体型
- ⑦その他

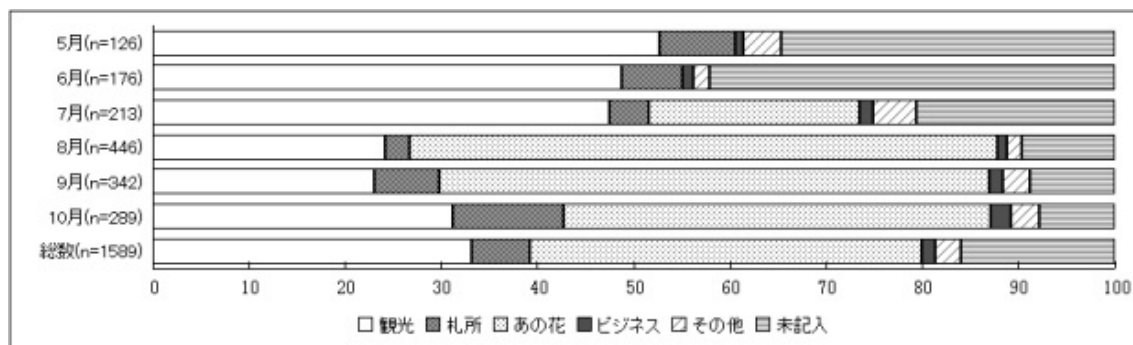


図4 レンタサイクルの使用目的 (複数回答)
秩父観光協会資料より天野作図

1番目は、既存観光資源である札所を訪問する札所型である(図5)。2番目は、秩父ミュージズパークを訪問するミュージズパーク型である(図5)。3番目が、「あの花」の「聖地巡礼」をしている、「あの花」型である(図6)。これについては後述する。意外であったのが、日常的な買い物行動にレンタサイクルを利用するケースである¹⁵⁾。これを反映しているのであろう、GPSのトラック上では、4番目の市街周回型を設定する(図7)。5番目の外周型は、秩父市街の外縁部を移動するもので、登場事例は少ない(図7)。6番目の近隣自治体型は、他の自治体まで足を伸ばすケースである(図8)。以上の



図5 GPS ログデータの一例(1)
上段2011年5月26日/下段2011年6月16日

事例に入らないケースを7番目のその他と区分した(図8)。

③「あの花」型は、a 秩父橋, b 定林寺, c 羊山公園の3ヶ所をまわっているものと規定した。その初見は2011年の5月27日である。徒歩による「聖地巡礼者」は、5月の大型連休中には、テレビ画面のハードコピーをスクラップブックに貼り、携えた人々を確認をしているため、自転車による「聖地巡礼」は、およそ1ヶ月遅れることになる。

「あの花型」には大きな特徴がある。a・bの訪問に際し、迷いながらあちらこちら、フラフラと移動している点である。cの羊山公園は目標が大

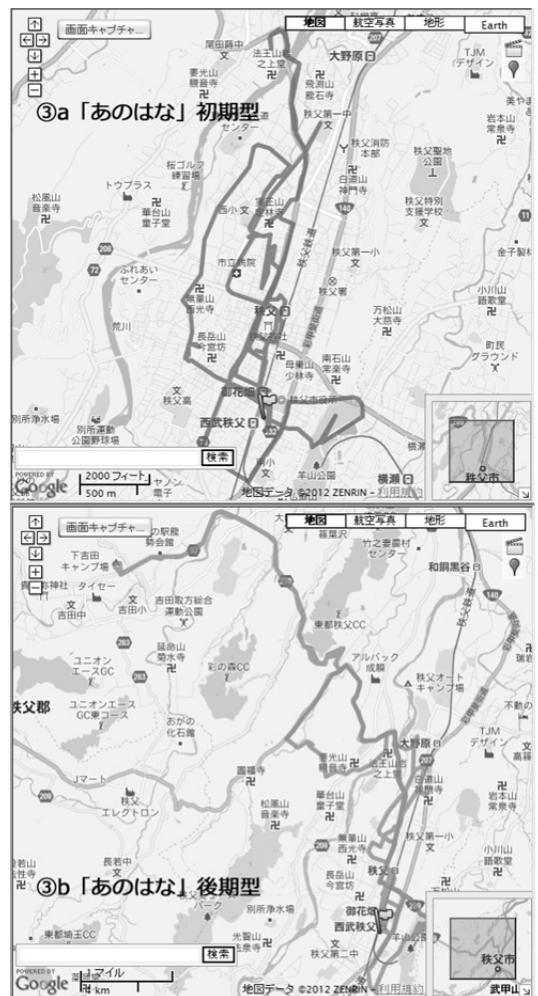


図6 GPS ログデータの一例(2)
上段2011年5月16日/下段2011年7月5日

きいため迷うことはないが、特に a は、住宅街の真真中に埋没し、初見では迷うことが必定である。秩父札所の巡礼であれば、順番通りに進む限り、巡礼路を示す案内板が各所にあるものの、17番札所だけを訪問する「聖地巡礼」者にとって、定林寺は到達しにくい所であった。ゆえに、図6では寺のある場所で、迷っている様子がうかがえる。また「あの花」型には、後期型が存在する。これは、劇中で話数が進む第9・10・最終話で龍勢櫓が主要な舞台になり、特に第10話では季節外れの龍勢を打ち上げるためである(表2)。このため龍勢櫓までレンタサイクルを借りて訪れる行為が、7月以降確

認される。一見するとこの行動は、「あの花型」とは違った論理で動いているように思える。しかし、図6を良く比べてみると、a~c を訪れているのが分かる。さすがに、この段階になると情報の蓄積が進み、迷っている様子は少ないが、往路と復路で違う道をたどるなど、道になれていない様子はいくつかルートがあるが、どのルートも片道10km程度の隔たりがある。この距離を超えて「聖地巡礼」を行った。

龍勢櫓が主要舞台となる第9話の放送が6月(表1・関東広域圏)であることを考えると、自転車に



図7 GPS ログデータの一例(3)
上段2011年6月6日/下段2011年6月3日



図8 GPS ログデータの一例(4)
上段2011年6月11日/下段2011年7月1日

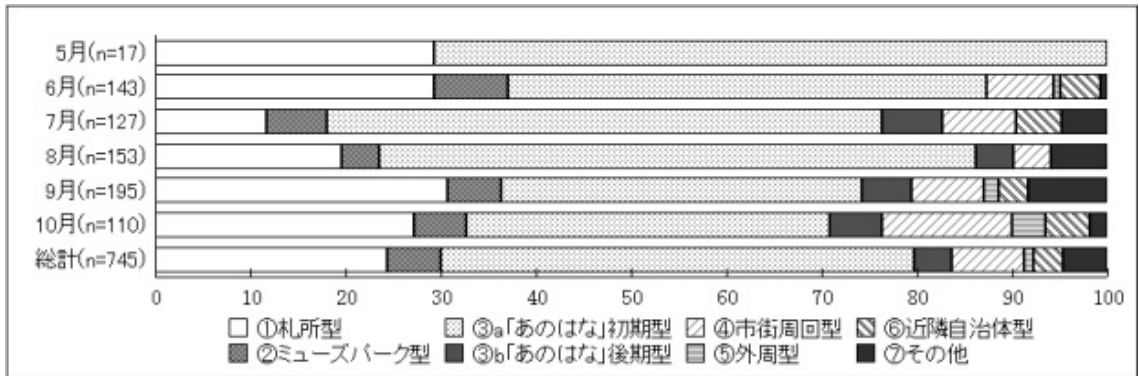


図9 GPSログの月別分類
天野作図

よる「聖地巡礼」が1ヶ月程度遅れて見られるのは、同様であった。

7類型について、分類し累計したものが図9になる。レンタサイクルの貸し出し簿による分析が、観光利用によるものが80.0%であったのに対し、①～③までを観光目的とみなすと、その割合は83.9%になり、ほぼ近似値となった。あのはな「聖地巡礼」を目的としたものに限定すると53.3%がレンタサイクルを利用していたことが分かる。

GPSによる調査は、2011年10月30日を以って終了したため、その後の観光客の移動実態は不明であるものの、この年、レンタサイクルを借りた多くの人が「あのはな聖地巡礼」の移動のために用いていた。

V おわりに

以上、観光客が「観光地内部で実際にどう動いているか」を把握するために、レンタサイクルに注目し、GPSロガーを取り付けた結果を分析した。レンタサイクル利用者のおよそ半数が「聖地巡礼」を行い、TV放送から約1ヶ月遅れて、自転車を利用した「聖地巡礼」を行うことが確認できた。

しかしながら、大きな問題が一つある。それは、「聖地巡礼者」のおよそ半数が自家用車を利用していることである¹⁶⁾。今回の手法では、彼ら、自家用車利用者がどのように行動しているかを把握

することは出来ない。これを補う手法として近年、ビッグデータと呼ばれる、膨大な情報を用いた分析が可能になりつつある、例えば、携帯電話の位置情報、自動改札の出入場記録、Facebook上のつぶやき情報など、さまざまなデータの利用が試みられている。GPSの利用以上に汎用性の高い分析が可能になる。これらを利用した分析は今後の課題としたい。

謝辞

本研究にあたり、埼玉県秩父地域振興センターによる委託研究「自転車観光客実態調査」の費用を一部充てた。同センターの大石章氏には実現にあたり尽力頂いた。記して感謝いたします。

注

- 1) 観光政策審議会「今後の観光政策の基本的な方向について」(答申第39号 1995年6月2日)。
- 2) Global Positioning System(グローバルポジショニングシステム)、全地球測位システムの略。地球上の衛星軌道を30機を超えるGPS衛星が電波を発信しながら飛び、その電波をロガーで記録することにより、地表面での緯度・経度・高さを算出出来る。元々、軍事用に開発されたシステムが、民間に転用された。移動体の場合は、2点間の計測結果から、移動速度・方向を、またその累積により、移動距離や軌跡(ト

ラック)を描くことができる。

- 3) アニメの舞台を訪れる行為を「聖地巡礼」と呼ぶ。アニメ・ツーリズムの主たる行動のひとつである。
- 4) 交流ノートの存在は普遍的なもので、「聖地巡礼」者が自発的に残す場合と、地元の側で用意する場合とがあるが、自然発生的なものである。
- 5) 日経 BP 編集部編(2013) : 『日経エンタテインメント! アニメ Special 声優バイブル』, 日経 BP, 118p. 中 P. 41.
- 6) テレビ放送は、いくつかの期日を設定して行われた。最も早いのは、関東広域圏におけるフジテレビの放送で、これに遅れること5日で近畿広域圏・関西テレビ。さらに遅れること2日で、中京広域圏・東海テレビで放送された。さらに5月下旬から、日本全域を対象として BS フジが、7月中旬からは、テレビくまもと、北海道文化放送で放送が行われたのが初回放送である。さらに再放送や CS における放送、オンデマンド放送などが行われた。本稿で「放送」の言葉を用いる時は、関東広域圏におけるフジテレビの放送を指す。
- 7) 「利益」は、同委員会が作成する、限定グッズのような直接的な利益から、秩父市への誘客全体といった間接的な利益も含まれる。
- 8) この要請は「作品を見て評価してほしいという」考え方と同根である。商業的に考えると、放送中に事故が起きれば、作品の評価が下がり、下手をすれば放送中止という事態も考えられる。これを回避するために、ファンが押し寄せることを防ぐため、秩父を前面に出さずにいたと考えられる。
- 9) 本稿では、アニメ作品に登場した舞台を訪問する行為を「聖地巡礼」と「 」つきで称す。ただし、一部固有名詞がゆえに、「 」を付けないケースもある。
- 10) 作中で主人公達6人が子供の頃結成したグループ名。
- 11) 天野宏司(2015) : アニメ・ツーリズムの導入と課題, 駿河台大学論叢, 51, pp. 107-121. 中,

表 1。

- 12) 2014年春のラリーでは、道の駅 龍勢会館をラリーポイントに入れたが、アクセシビリティの悪さから、鉄道利用者に不評であったことがアンケート結果から分かる。
- 13) どちらも作品中に何度も登場するが、もっとも初期の段階から賑わった地点である。
- 14) 西武秩父線と秩父鉄道線の間では、基本的に相互乗り入れをしていない。最寄り駅間の距離は約500mで、時刻表は双方で連動していない。
- 15) 秩父情報館における証言であるが、会話の中で、買い物行動に自転車を利用していると言うことを把握しているとのことである。
- 16) 天野宏司(2012) : 『「アニメ『あの花』 in 秩父キャンペーン」集客効果に関する分析レポート』, 秩父アニメツーリズム実行委員会, 39p., 天野宏司(2013) : 『「アニメ『あの花』を活用した誘客イベントの集客効果に関する分析レポート2012』, 秩父アニメツーリズム実行委員会, 55p. および, 天野宏司(2015) : 『「アニメ『あの花』を活用した誘客イベントの集客効果に関する分析レポート2013』, 秩父アニメツーリズム実行委員会, 41p.

参考文献

- 相尚寿(2014) : 観光研究への位置情報ビッグデータ展開の可能性, 観光科学研究(7), pp.11-19.
- 天野宏司(2012) : 『自転車観光客実態調査報告書』, 埼玉県, 46p.
- 有馬貴之(2010) : 動物園来園者の空間利用とその特性—上野動物園と多摩動物公園の比較, 地理学評論, 83(4) pp.353-374.
- 石川美澄・岡本健・山村高淑・松本真治(2008) : アニメーション作品が観光振興に与える影響に関する研究(その3) 埼玉県鷲宮町における「らき・すた」聖地巡礼者の属性と旅行形態に関する考察, 日本観光研究学会全国大会学術論文集(23), pp.357-356.
- 岩間英哲・川口峻・瀧澤勇樹・橋場大剛・福富忠和(2013) : コンテンツによる地域振興の研究—

- アニメツーリズムの成立条件と構造一、専修ネットワーク & インフォメーション (21), pp.17-26.
- 大谷あやの・岡本健・野中萌・坂田庄巳(2008) : 作品が観光振興に与える影響に関する研究(その4)「らき・すた」聖地における巡礼者の人数把握方法について, 日本観光研究学会全国大会学術論文集(23), pp.361-364.
- 岡本健(2008) : アニメ聖地における巡礼者の動向把握方法の検討一聖地巡礼ノート分析の有効性と課題について一, 観光創造研究(2), pp.1-13.
- 岡本健(2010a) : アニメ聖地巡礼の特徴と研究動向一既往研究及び調査の整理を通じて一, 北海道大学観光学高等研究センター, pp.91-109.
- 岡本健(2010b) : コンテンツツーリズムにおける若者の観光情報行動の特徴に関する研究一開拓的アニメ聖地巡礼者による情報発信行動に着目して一, 日本観光研究学会全国大会学術論文集(25), pp.1-4.
- 岡本健(2010c) : 現代日本における若者の旅文化に関する研究一アニメ聖地巡礼を事例として一, 旅の文化研究所研究報告(19), pp.1-19.
- 岡本健(2011b) : 交流の回路としての観光一アニメ聖地巡礼から考える情報社会の旅行コミュニケーション一, 人工知能学会誌26(3) pp.256-263.
- 岡本健(2012b) : 旅行者主導型コンテンツツーリズムにおける観光資源マネジメント一らき・すた聖地「鷺宮」とけいおん!聖地「豊郷」の比較から一, 日本情報経営学会誌.32(3), pp.59-71.
- 岡本健監修(2014) : 『神社巡礼一マンガ・アニメで人気の「聖地」をめぐる一』, エクスナレッジ, 159p.
- 岡本健・山村高淑・松本真治・坂田庄巳(2008) : アニメーション作品が観光振興に与える影響に関する研究(その1)アニメ聖地巡礼の誕生と展開, 日本観光研究学会全国大会学術論文集(23), pp.349-352.
- 岡本健・山村高淑・松本真治・坂田庄巳(2008) : アニメーション作品が観光振興に与える影響に関する研究(その2)埼玉県鷺宮町における「らき・すた」聖地巡礼の展開経緯と来訪者動態について, 日本観光研究学会全国大会学術論文集(23), pp.353-356.
- 柿崎俊道(2005) : 『聖地巡礼 アニメ・マンガ12ヶ所めぐり』, 株式会社キルタイムコミュニケーション, 161p.
- 片山明久(2013) : アニメ聖地における巡礼者と地域の関係性に関する研究一富山県南砺市城端を事例として一, 観光学評論1(2), pp.203-226.
- 神田孝治(2012) : 白川郷へのアニメ聖地巡礼と現地の反応一場所イメージおよび観光客をめぐる文化政治一, 観光学(7), pp.23-28.
- 国土交通省総合政策局・経済産業省商務情報政策局・文化庁文化部(2005) : 映像等コンテンツの制作・活用による地域振興のあり方に関する調査報告書, 国土交通省総合政策局観光地域振興課・経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課・文化庁文化部芸術文化課, 98p.
- 清水強志・佐藤和雄(2011) : アニメ文化の受容一アニメ聖地巡礼一, 日仏社会学会年報(22), pp.65-82.
- 杉山慎策・村上敏也(2014) : ビッグデータによる岡山の観光資源の分析とコンテキスト転換, 地域デザイン(4), pp.87-109.
- 聖地巡礼委員会編(2013) : 『アニメ探訪聖地巡礼ガイド』, カンゼン, 255p.
- 臺純子・兼子彩香・宮川磨弥(2010) : アニメ映画聖地化による観光への影響一映画『サマーウォーズ』の聖地巡礼ノート分析から, 日本観光研究学会全国大会学術論文集(25), pp.149-152.
- 谷村要(2011) : アニメ聖地巡礼者の研究(1)2つの欲望のベクトルに着目して, 大手前大学論集(12), pp.187-199.
- 谷村要(2014) : 趣味の包摂が生む地域活性化一アニメ聖地に見る他者の受け入れから, ノモス(35), pp.35-46.
- ドリルプロジェクト編(2010) : 『聖地巡礼 NAVI一アニメ&コミック一』, 飛鳥新社, 206p.
- 長尾光悦・川村秀憲・山本雅人・大内東(2004) : 観光動態情報の獲得を意図した GPS ログデー

- タマイニング, 電子情報通信学会技術研究報告, 103(724), pp.7-12.
- 長尾光悦・川村秀憲・山本雅人・大内東(2005): GPS ログからの周遊型観光行動情報の抽出, 情報処理学会研究報告, 78, pp.23~28
- 野村幸子・岸本達也・伊藤一秀(2004): GPS を用いた鎌倉市における観光客の歩行行動調査とアクティビティの分析, 地理情報システム学会講演論文集(13), pp.113-116.
- 本郷達也(2003): GPS による移動データを用いた奈良飛鳥地域での周遊行動の分析, 土木学会年次学術講演会講演集第4部, 58, pp.441-442.
- 増淵敏之(2010a): コンテンツツーリズムの発展的研究ー『北の国から』再考ー地域イノベーション(3), pp.45-53.
- 増淵敏之(2010b): 『物語を旅するひとびと 1ーコンテンツ・ツーリズムとは何か』, 彩流社, 215p.
- 増淵敏之(2011): 『物語を旅するひとびと 2ーご当地ソングの歩き方ー』, 彩流社, 217p.
- 増淵敏之(2014): 『物語を旅するひとびと 3ーコンテンツツーリズムとしての文学巡りー』, 彩流社, 191p.
- 増淵敏之・溝尾良隆・安田亘宏・中村忠司・橋本英重・岩崎達也・吉口克利・浅田ますみ(2014): 『コンテンツツーリズム入門』, 古今書院, 206p.
- 矢部直人・有馬貴之・岡村祐・角野貴信(2010): GPS を用いた観光行動調査の課題と分析手法の検討, 観光科学研究(3), pp.17-30.
- 矢部直人・有馬貴之・岡村祐他(2009): 上野動物園における GPS を用いた来園者行動の分析, 日本観光研究学会全国大会学術論文集, 24, pp.229-232.
- 山村高淑(2008): アニメ聖地の成立とその展開に関する研究ーアニメ作品「らき☆すた」による埼玉県鷲宮町の旅客誘致に関するー考察, 国際広報メディア・観光学ジャーナル(7), pp.145-164.
- 山村高淑(2009): 観光情報革命と文化創出型観光の可能性ーアニメ聖地巡礼に見る次世代ツーリズムの萌芽ー, 地域開発(533), pp.32-36.
- 由谷裕哉(2011): アニメ『花咲くいろは』の聖地巡礼と湯涌ぼんぼり祭りー聖地巡礼ノートに注目してー, 小松短期大学地域創造研究所年報(3), pp.26-36.
- 由谷裕哉(2012): 巡礼ノートから見たアニメ聖地巡礼ー金沢市湯涌温泉における『花咲くいろは』巡礼ノートを例として, 小松短期大学地域創造研究所年報(4), pp.1-10.
- 由谷裕哉(2013a): 聖地巡礼と記念行為ー日本のアニメ聖地の例からー, 比較思想研究(39), pp.179-184.
- 由谷裕哉(2013b): 秩父市定林寺における奉納絵馬, 西郊民俗(224), pp.1-9.
- 由谷裕哉(2014): 聖地・西岸ー城端間を回遊する巡礼者についてー, 加能民俗研究(45), pp. 83-104.